

5. 別添資料

(6. 生物生産学部・生物圏科学研究科)

1. 瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターの研究体制	……2
2-1. 生物圏科学研究科の Science citation index (SCI) 収録論文数及び被引用数トップ10%論文数	……2
2-2. 生物圏科学研究科の 2010-2013 年論文の掲載誌カテゴリーから見た研究分野 (Web of Science データ)	……3
3. 主要な学術賞受賞の内容	……4
4. 科学研究費補助金事業への申請件数および採択件数の状況	……6
5. 共同研究 (500 万円以上) と受託研究・受託事業 (1000 万円以上) のリスト	……7
6. 知的財産権の特許取得リスト (H22 年度～)	……9
7. 研究科教員が関与して設立したベンチャービジネス企業の状況	……12
8. 教員活動状況報告書【研究実績調査票】	……12
9. 研究科主催「食料・環境問題国際シンポジウム」の開催状況	……13
10. 研究科共通機器	……14
11. 広島大学地域貢献研究プロジェクト採択リスト	……17
12. 生物生産学部・生物圏科学研究科ミッションの再定義「研究推進の方向性」資料	……18

別添資料 1 瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターの研究体制 (出典：研究科作成データ)

(H25. 10. 1 現在)

	教授		准教授		講師		助教		他研究科 研究員	客員研究員
陸域生物部門	6	(1)	4	(1)	2	(1)	3	(2)	3	2
動植物精密実験部門	3		2		1		1		0	0
食資源機能開発部門	6		0		0		0		0	0
海域生物圏部門	4	(1)	5	(1)	0		2	(2)	3	7
総合計	19	(2)	11	(2)	3	(1)	6	(4)	6	9

※ () 内の数は、専任教員数

別添資料 2

別添資料 2-1. 生物圏科学研究科の Science citation index (SCI)

収録論文数及び被引用数トップ 10% 論文数

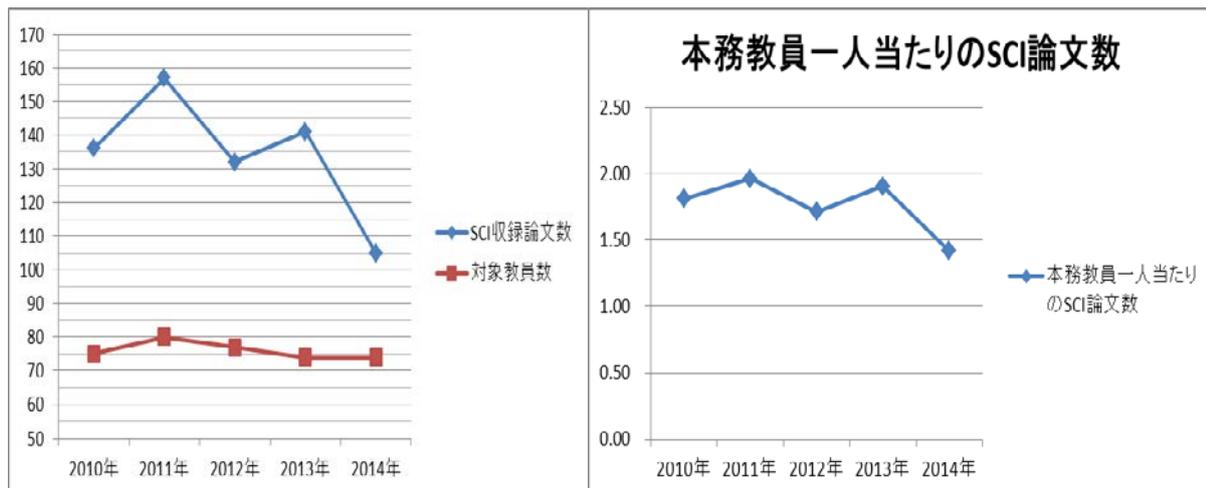
事 項	出 版 年				
	2010	2011	2012	2013	2014
SCI 収録論文数	136	157	132	141	105
対象教員数 (4月1日現在)	75	80	77	74	74
本務教員一人当 たりの SCI 論文数	1.81	1.96	1.71	1.91	1.42
被引用数トップ 10% 論文数	3	10	8(1)	14(2)	

*1 データは年単位で集計したもの。

*2 被引用数トップ 10% 論文数は 2014 年 5 月現在の広島大学 IR データ。

*3 対象教員数の () 内は特任教員で内数

*4 被引用数トップ 10% 論文数の () 内はトップ 1% 論文数



別添資料 2-2. 生物圏科学研究科の 2010-2013 年論文の掲載誌カテゴリーから見た研究分野
(出典：Web of Science データ)

掲載誌の分野	論文数
AGRICULTURE (農学)	98
FOOD SCIENCE TECHNOLOGY (食品科学技術)	75
ENVIRONMENTAL SCIENCES ECOLOGY (環境科学・生態学)	64
BIOCHEMISTRY MOLECULAR BIOLOGY (生化学・分子生物学)	62
CHEMISTRY (化学)	59
MARINE FRESHWATER BIOLOGY (海洋・淡水生物学)	58
ZOOLOGY (動物学)	47
BIOTECHNOLOGY APPLIED MICROBIOLOGY (バイオテクノロジー・応用微生物学)	40
VETERINARY SCIENCES (獣医科学)	32
FISHERIES (水産学)	29
MICROBIOLOGY (微生物学)	25
PLANT SCIENCES (植物科学)	23

別添資料 3 主要な学術賞受賞の内容（出典：研究科作成）

賞の名称	受賞者名	受賞年月日
日本海洋学会賞	上 真一	平成 22 年 4 月 1 日
日本食品工学会特別功労賞	鈴木 寛一	平成 22 年 8 月 5 日
日本土壌肥料学会賞	実岡 寛文	平成 22 年 4 月 4 日
日本食品工学会第 11 回年次大会 優秀ポスター発表賞	川井 清司・ 羽倉 義雄	平成 22 年 8 月 19 日
日本食品工学会第 11 回年次大会 優秀口頭発表賞	川井 清司・ 羽倉 義雄	平成 22 年 8 月 19 日
日本食品工学会第 11 回年次大会	川井 清司ら	平成 22 年 8 月 19 日
日本農芸化学会中四国支部 奨励賞	若井 暁	平成 22 年 9 月 24 日
Biological & Pharmaceutical Bulletin 誌 「Highlighted paper selected by Editor-in-chief」	太田 恒孝	平成 22 年 9 月 17 日
第 9 回広島大学長表彰	島田 昌之	平成 22 年 11 月 24 日
園芸学会賞	櫻井 直樹	平成 23 年 3 月 20 日
マリンバイオテクノロジー学会岡見賞	堀 貫治	平成 23 年 5 月 28 日
(社) 日本土壌肥料科学会 2011 年度つくば大会 ポスター賞	和崎 淳・ 河野 憲治	平成 23 年 8 月 9 日
日本食品工学会第 12 回年次大会優秀口頭発表賞	川井 清司・ 羽倉 義雄	平成 23 年 8 月 6 日
日本食品工学会第 12 回年次大会優秀ポスター 発表賞	川井 清司・ 羽倉 義雄	平成 23 年 8 月 6 日
The Journal of Poultry Science Outstanding Paper Award	吉村 幸則・ 磯部 直樹	平成 23 年 8 月 25 日
日本沿岸域学会賞（出版・文化賞）	山本 民次	平成 23 年 9 月 12 日
2011 年度 水産海洋学会研究発表大会（函館） 講演賞	小路 淳	平成 23 年 11 月 12 日
日本 DNA 多型学会優秀賞	西堀 正英	平成 23 年 12 月 2 日
10th Transgenic Technology(TT)Meeting, Best Poster Award	堀内 浩幸・ 古澤 修一	平成 23 年 10 月 26 日
第 6 8 回中国文化受賞	松田 治男	平成 23 年 11 月 4 日
日本栄養・食糧学会 学会賞	加藤 範久	平成 24 年 5 月 18 日
第 5 回海洋立国推進功労者表彰	上 真一	平成 24 年 7 月 13 日
クリタ水・環境科学研究優秀賞	竹田 一彦	平成 24 年 8 月 24 日
日本動物遺伝育種学会・学会長特別賞	西堀 正英	平成 24 年 10 月 6 日
日本食品工学会年次大会優秀口頭発表賞	川井 清司・ 羽倉 義雄	平成 24 年 9 月 10 日

広島大学生物生産学部・生物圏科学研究科

日本農学進歩賞	鈴木 卓弥	平成 24 年 11 月 26 日
第 25 回「中小企業優秀新技術・新製品賞」 産学官連携特別賞	島本 整	平成 25 年 4 月 8 日
平成 24 年度低温生物工学会奨励賞	川井清司	平成 25 年 6 月 23 日
日本食品工学会 2012 年度論文賞	川井清司・ 羽倉 義雄	平成 25 年 8 月 9 日
日本学術振興会・ひらめき☆ときめきサイエンス 推進賞	西堀正英	平成 25 年 9 月 1 日
Zoological Science Award 2013 および藤井賞	浦田 慎・ 大塚 攻	平成 25 年 9 月 27 日
日本動物遺伝育種学会・学会長特別賞	西堀正英	平成 25 年 10 月 12 日
European Lipid Technology Award (ヨーロッパ脂質工学賞)	佐藤清隆	平成 25 年 10 月 29 日
日本食品工学会年次大会 ポスター賞	川井清司・ 羽倉 義雄	平成 25 年 8 月 10 日
日本食品工学会年次大会 優秀口頭発表賞	羽倉 義雄・ 川井清司	平成 25 年 8 月 10 日
日本 DNA 多型学会優秀研究賞	西堀正英	平成 25 年 11 月 22 日
第 13 回極限環境生物学会 ポスター賞	三本木 至宏・ 若井 暁	平成 24 年 12 月 1 日
農芸化学奨励賞	鈴木 卓弥	平成 26 年 3 月 27 日
日本畜産学会功労賞 (西川賞)	谷口 幸三	平成 26 年 3 月 27 日
平成 25 年度日本水産学会功績賞	堀 貫治	平成 26 年 3 月 29 日

別添資料 4 科学研究費補助金事業への申請件数および採択件数の状況

(出典：研究科作成)

研究種目	平成 22 年度			平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			
	採択			採択			採択			採択			
	新規	継続	計										
特別推進研究													
特定領域研究	0	1	1	0	0	0							
新学術領域研究	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1		1	
基盤研究 (S)	0	0	0	0	0	0							
基盤研究 (A)	0	0	0	0	0	0				0		0	
基盤研究 (B)	一般	2	8	10	1	8	9	3	6	9	3	5	8
	海外学術調査		2	2		2	2	1	0	1	2	1	3
基盤研究 (C)	4	10	14	7	7	14	7	11	18	10	14	24	
挑戦的萌芽研究	1	2	3	2	1	3	2	2	4	4	4	8	
若手スタートアップ)		2	2		2	2				0		0	
若手研究 (A)	0	1	1	1	1	2	1	2	3	0	3	3	
若手研究 (B)	1	4	5	5	3	8	2	6	8	2	5	7	
計	8	31	39	16	25	41	16	28	44	22	32	54	
採択率 (%) () 内は新規	生物圏	45.9 (14.5)			48.2 (26.7)			50.6 (27.6)			62.1 (40)		
	広島大学	53.2 (26.9)			56.3 (34.5)			51.0 (34.6)			59.8 (35.5)		
	全国	45.3 (22.1)			49.7 (29.1)			52.2 (28.6)			52.7 (30.2)		

* 空欄は申請なし

別添資料 5 共同研究(500万円以上)と受託研究・受託事業(1000万円以上)のリスト

(出典：研究科作成)

共同研究(平成22年度～)

委託者	研究担当者	年度	受入金額(千円)	研究題目
キューピー(株)	堀内 浩幸	25	7,480	鶏卵のアレルゲン性を低減する技術
(財)バイオインダストリー協会	松田 治男	22	16,011	ニワトリモノクローナル抗体製技術を活用した免疫寛容回避等の基礎技術の開発
(株)大晃産業	小池 一彦	23	6,050	熱回収型バラスト水処理装置(TAFシステム)の生物殺滅性能の研究

受託研究・受託事業(平成22年度～)

委託者	研究担当者	年度	受入金額(千円)	研究題目
(独)科学技術振興機構	清水 典明	22	26,000	IR/MAR 遺伝子増幅法を蛋白質生産の基幹技術へと育成するための研究
(独)農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター	堀 貫治	22	13,500	農林水産物からのクチン本格的探索
(独)農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター	沖中 泰	22	10,237	養殖魚の高品質化に有効な遺伝子の探索：耐病性に関わる形質
(独)水産総合研究センター	上 真一	22	18,685	平成22年度大型クラゲ国際共同調査委託事業
農林水産省農林水産技術会議事務局	上 真一	22	60,000	クラゲ類の大発生予測・抑制技術の開発
環境省	小路 淳	22	10,530	藻場の生態系サービスの経済的価値評価：魚類生産の「原単位」から「日本一」をさぐる
公益財団法人ひろしま産業振興機構	松田 治男	22	22,900	メタボリックシンドロームリスク疾患の抗体検査薬の開発
(独)科学技術振興機構	清水 典明	23	24,854	IR/MAR 遺伝子増幅法を蛋白質生産の基幹技術へと育成するための研究
(独)農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター	島田 昌之	23	20,979	精漿の精子および子宮への作用に関する基礎的研究と実用化技術の開発

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター	堀 貫治	23	13,500	農林水産物からのレクチン本格的探索
農林水産省農林水産技術会議事務局	上 真一	23	50,506	クラゲ類の大発生予測・抑制技術の開発
(独) 農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター	沖中 泰	23	10,569	養殖魚の高品質化に有効な遺伝子の探索：耐病性に関わる形質
農林水産省農林水産技術会議事務局	杉野 利久	23	22,363	高泌乳牛における泌乳平準化を図る新たな周産期栄養管理技術の開発
環境省	小路 淳	23	40,202	藻場の資源供給サービスの定量・経済評価と時空間変動解析による沿岸管理方策の提案
農林水産省農林水産技術会議事務局	杉野 利久	24	19,800	高泌乳牛における泌乳平準化を図る新たな周産期栄養管理技術の開発
(独) 農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター	島田 昌之	24	20,853	精漿の精子および子宮への作用に関する基礎的研究と実用化技術の開発
環境省	小路 淳	24	32,162	藻場の資源供給サービスの定量・経済評価と時空間変動解析による沿岸管理方策の提案
農林水産省農林水産技術会議事務局	杉野 利久	25	18,700	高泌乳牛における泌乳平準化を図る新たな周産期栄養管理技術の開発
環境省	小路 淳	25	32,161	藻場の資源供給サービスの定量・経済評価と時空間変動解析による沿岸管理方策の提案

別添資料 6 知的財産権の特許取得リスト(平成 22 年度～)(出典：研究科作成)

発明者	発明等の名称	出願年月日	取得年月日	技術移転先
松田 治男他	ニワトリの白血病阻止因子(LIF), 及びそれをコードする遺伝子	2007/7/17	2010/4/6	
佐藤 清隆他	乳化組成物	2005/2/28	2010/5/14	—
清水 典明	遺伝子増幅により形成された反復配列から, 発現抑制されているタンパク質を発現させる方法, キット, および形質転換体	2007/8/10	2010/5/14	
正岡 淑邦他	有機性廃棄物の処理方法および処理システム	2005/1/26	2010/5/21	—
松田 治男他	ニワトリの白血病阻止因子(LIF), 及びそれをコードする遺伝子	2007/7/17	2010/8/10	
清水 典明	遺伝子増幅により形成された反復配列から, 発現抑制されているタンパク質を発現させる方法, キット, および形質転換体	2005/11/15	2010/9/24	
桜井 直樹	食品の食感測定装置	2006/11/16	2010/9/28	生物振動研究所
清水 典明他	哺乳動物細胞内で目的遺伝子を高度に増幅させるための方法およびベクター	2007/8/20	2010/9/29	—
羽倉 義雄他	ゲル化状態評価装置, それを備えたゲル製造装置及び豆腐製造装置, 並びに, ゲル製造方法及び豆腐製造方法	2004/10/6	2010/10/15	—
羽倉 義雄他	食用油の劣化程度の評価方法, および食用油の劣化程度評価装置	2005/2/15	2010/12/24	—
羽倉 義雄他	誘電特性を利用した凍結被検体の脆化温度の決定方法	2005/2/15	2011/1/7	—
堀 貫治他	新規ポリペプチドおよびそのポリペプチドをコードするポリヌクレオチド, 並びにそれらの利用	2007/8/29	2011/1/11	
松田 治男他	ニワトリ型モノクローナル抗体の生産方法, および当該生産方法によって生産されるニワトリ型モノクローナル抗体	2004/11/9	2011/3/4	人広島大学
羽倉 義雄	コンドロイチンの製造方法	2005/2/16	2011/3/11	—
長沼 毅	鉄キレート発生材及びその使用方法	2010/3/17	2011/4/1	日の丸カーボテクノ(株)
清水 典明	遺伝子増幅により形成された反復配列から, 発現抑制されているタンパク質を発現させる方法, キット, および形質転換体	2007/7/30	2011/4/6	
羽倉 義雄	液-液系エマルジョンの製造装置および液-液系エマルジョンの製造方法	2004/3/30	2011/4/22	フマキラー(株)
松田 治男他	タンパク質の測定方法	2005/9/6	2011/4/22	—
清水 典明	遺伝子増幅により形成された反復配列から, 発現抑制されているタンパク質を発現させる方法, キット, および形質転換体	2005/11/15	2011/4/27	
船戸 耕一他	形質転換酵母を用いるセラミドの製造方法	2005/12/5	2011/5/13	—
清水 典明	遺伝子増幅により形成された反復配列から, 発現抑制されているタンパク質を発現させる方法, キット, および形質転換体	2007/8/29	2011/7/12	

正岡 淑邦他	カンキツグリーンング病の検出方法，および検出キット	2006/2/21	2011/7/15	—
堀 貫治他	高マンノース型糖鎖と結合し，ニワトリ抗体の精製に用いられる，BRYPSIS MAXIMA から単離されたレクチン	2007/8/31	2011/7/19	
島田 昌之他	受胎率および産子数向上凍結精子およびその製法	2007/12/17	2011/7/22	(公)東京都農林水産振興財団，大分県等
松田 治男他	ニワトリ型一本鎖可変領域断片 (scFv) から組換えニワトリ型二価抗体を製造する方法によって得られた抗体	2007/8/22	2011/9/30	
清水 典明	目的遺伝子の増幅形態を制御するための方法	2006/5/24	2011/11/18	—
清水 典明他	哺乳動物細胞内で目的遺伝子を高度に増幅させるための方法およびベクター	2009/3/3	2011/12/7	—
堀 貫治他	新規ポリペプチドおよびそのポリペプチドをコードするポリヌクレオチド，並びにそれらの利用	2007/8/28	2011/12/9	
松田 治男他	ニワトリキメラ抗体およびその利用	2005/3/31	2012/1/6	
清水 典明	遺伝子増幅効率の増加方法	2006/5/24	2012/2/17	—
山本 民次	底質改善材およびそれを用いる底質改善方法	2005/8/5	2012/3/16	株式会社日本総合科学
清水 典明他	哺乳動物細胞内で目的遺伝子を高度に増幅させるための方法およびベクター	2009/2/23	2012/3/20	—
羽倉 義雄他	魚節の削り節製造方法及び削りだし装置	2006/3/22	2012/4/13	—
堀内 浩幸他	ニワトリ胚性幹細胞およびその評価方法	2009/9/22	2012/6/12	—
正岡 淑邦他	臭気成分の分解装置，臭気成分を分解する方法及び空気清浄装置	2007/5/21	2012/6/22	—
島本 整他	抗ノロウイルス剤およびこれを含有する組成物	2009/12/11	2012/7/18	アルタン株式会社，GOJO
島本 整他	抗ノロウイルス剤およびこれを含有する組成物	2009/12/11	2012/9/28	アルタン株式会社
山本 民次他	底質環境改善材およびその利用	2008/6/2	2012/10/5	株式会社日本総合科学
清水 典明	遺伝子増幅により形成された反復配列から，発現抑制されているタンパク質を発現させる方法，キット，および形質転換体	2005/11/15	2012/10/5	
堀 貫治他	$\alpha 1, 6$ フコース糖鎖の検出および分別方法	2007/2/27	2012/10/19	—
清水 典明他	哺乳動物細胞内で目的遺伝子を高度に増幅させるための方法およびベクター	2009/2/16	2012/11/9	—
清水 典明他	哺乳動物細胞内で目的遺伝子を高度に増幅させるための方法およびベクター	2009/2/23	2013/2/5	—
船戸 耕一他	形質転換酵母を用いたヒト型セヒドの製造方法	2009/12/4	2013/2/5	—
岡田 聖香他	高性能造核剤及び該造核剤の製造方法	2006/4/28	2013/2/8	株式会社滑疑舎
清水 典明	遺伝子増幅により形成された反復配列から，発現抑制されているタンパク質を発現させる方法，キット，および形質転換体	2007/5/16	2013/2/12	

広島大学生物生産学部・生物圏科学研究科

鈴木 寛一他	炭化処理装置	2008/2/1	2013/3/8	—
島本 整他	抗ノロウイルス剤およびこれを含有する組成物	2009/11/9	2013/4/30	アルタン株式会社, GOJO
山本 民次他	酸素発生材, 酸素発生材の製造方法及び環境改善方法	2008/7/29	2013/5/2	株式会社日本総合科学
清水 典明	目的遺伝子を染色体外で高度に増幅させるためのベクターおよびその利用	2010/3/8	2013/6/7	—
松田 治男他	新規抗体及びその利用方法→ 新規抗体, 遺伝子, 単鎖可変領域フラグメント, 発現用ベクター, 検出用キット, 及び検出方法	2007/9/28	2013/6/28	—
長沼 毅	鉄キレート発生材及びその使用方法	2010/9/16	2013/7/3	日の丸カーボテクノ株式会社
船戸 耕一他	形質転換酵母を用いたヒト型セラミドの製造方法	2007/6/5	2013/8/23	—
船戸 耕一他	小胞体局在化シグナル付スフィンゴリピッド $\Delta 4$ -デサチュラーゼを用いた形質転換細胞におけるセラミドの製造方法	2007/6/12	2013/8/23	—
島本 整他	抗ノロウイルス剤およびこれを含有する組成物	2010/1/6	2013/9/3	アルタン株式会社, GOJO
長沼 毅他	酸性水製造方法及び酸性水製造装置	2009/2/16	2013/9/20	—
櫻井 直樹	食品の食感を測定する際の電源ノイズ除去方法	2010/10/4	2013/10/4	有限会社生物振動研究所
堀内 浩幸他	ニワトリ胚性幹細胞およびその評価方法	2009/8/7	2013/11/15	—
島本 整他	エンテロウイルス属の非エンベロープウイルスに対する抗ウイルス剤および抗ウイルス用組成物	2010/9/30	2013/11/29	アルタン株式会社
正岡 淑邦他	空気浄化装置	2009/8/7	2013/12/6	—
島田 昌之他	受胎率および産子数向上凍結精子およびその製法	2007/12/17	2013/12/6	大分県, (株)広島クライオプリザベーションサービス等
藤田 耕之輔他	腫瘍を処置するための組成物およびその製造方法	2008/8/8	2013/12/27	—
島本 整他	抗ノロウイルス剤およびこれを含有する組成物	2007/6/12 2008/2/15	2014/1/8	アルタン株式会社, GOJO
櫻井 直樹他	加工食品の水分量測定方法, 及び加工食品の水分量測定装置	2008/4/25	2014/1/24	有限会社生物振動研究所
清水 典明	遺伝子増幅効率の増加方法, および当該方法を行なうためのキット	2011/9/16	2014/1/31	—
船戸 耕一他	形質転換酵母を用いたヒト型セラミドの製造方法	2009/12/16	2014/2/19	—
松田 治男他	インテグリン $\alpha 8 \beta 1$ 特異的モノクローナル抗体	2012/4/20	2014/2/25	アステラス製薬株式会社

別添資料 7 研究科教員が関与して設立したベンチャービジネス企業の状況 (出典：研究科作成)

設立法人名	設立年月	代表者名	関与する教員 (H25年度末)	継続状況
(有)生物振動研究所	平成17年3月 設立	櫻井直樹	櫻井直樹	○
ガイア協同組合	平成17年8月 設立	本田逸男	平成24年度末で関係教員退職のため現在は関与なし	—
山本科学興業(株)	平成18年5月 設立	山本良一	櫻井直樹	○
(株)広島バイオメディカル	平成19年4月 設立	豊浦雅義	平成25年9月30日解散,ファーマフーズに吸収合併	×
(株)広島クライオプリザベーションサービス	平成23年6月 設立	島田昌之	島田昌之 隠善由紀子(契約職員)	○

別添資料 8 教員活動状況報告書【研究実績調査票】 (出典：研究科作成)

研究活動

1. 「部局学生が第一著者」の項では、学部生に[B]、博士課程前期生に[M]、同後期生に[D]を記入してください。該当しない場合は[X]。
2. 「部局業績数カウント対象」の項は研究科の論文等をカウントする際に重複を避けるためのものです。著者に複数の部局内教員が含まれる場合には、代表1名の方を決めて、本調査票提出者が代表の場合に○を付けてください。
3. 著者名・発表者名の項で、本調査票提出者に2名下線、その他の部局内教員に下線を付けてください。
4. 赤字は、入力例です。(提出時には削除してください。)

著書

部局学生が第一著者	部局業績数のカウント対象	著者名	著書名	編者(監者)会名	出版社名	所在地	総頁	執筆頁(初頁～最終頁)	発行年	査読の有無	査読の場合の種別
X	○	島田昌之・山本良一	生命・食料・環境のサイエンス	江崎浩幸	共立出版	東京	220	1~4	2011	査読付き	査内他種別

論文

部局学生が第一著者	部局業績数のカウント対象	著者名	論文名	掲載誌名	巻	号	頁(初頁～最終頁)	発行年	査読の有無	IF(インパクトファクター)	査読の場合の種別
B	○	Yamaguchi, S., Okayama, J., Hirashima, J., Obama S.	Estimation of geographical distribution limits on the basis of RAPD analysis	Journal of Biosphere Science		50	1-15-23	2011	査読付き	1.833	査内他種別

総論

部局学生が第一著者	部局業績数のカウント対象	著者名	論文名	掲載誌名	巻	号	頁(初頁～最終頁)	発行年	査読の有無	IF(インパクトファクター)	査読の場合の種別
M	X	Okayama, J., Hirashima, J., Yamaguchi, S.	Estimation of geographical distribution limits on the basis of RAPD analysis	Journal of Biosphere Science		50	1-15-23	2011	査読付き	1.833	査内他種別

国際会議発表

部局学生が第一著者	部局業績数のカウント対象	発表者名	題名	国際会議名	会議主催団体名	開催場所	開催場所(国名も掲載)	発表年	発表形態(口頭ポスター等)	査読の有無	査読の場合の種別
B	○	Yamaguchi, S., Okayama, J., Hirashima, J.	Estimation of geographical distribution limits on the basis of RAPD analysis	9th International Congress on Biosphere	Society for Biosphere Science	Chicago	USA	2011	口頭	査読付き	査内

総論+その他

学生が第一著者	部局業績数のカウント対象	著者名	論文名	掲載誌名	巻	号	頁(初頁～最終頁)	発行年	査読の有無	IF(インパクトファクター)	査読の場合の種別
X	○	島田昌之・山本良一	生物内産と産業	生物圏科学		50	1-15-23	2011	査読無し	なし	査内他種別

別添資料 9 研究科主催「食料・環境問題国際シンポジウム」の開催状況(出典：研究科作成)

回数	年月日	シンポジウムテーマ	会場(広島大学)	参加者数
第 1 回	平成 20 年 12 月 2 日	安全・安心な食料自給を瀬戸内圏から ー里山・里海・里食のフロンティアー	(第 1 部) 中央図書館ライブ ラリーホール	150 名
			(第 2~4 部) サタケメモリアルホール	1,000 名
第 2 回	平成 22 年 1 月 27 日	東アジア共同体の「食の安全環境」 ー国際教育連携をめざしてー	学生会館 レセプションホール	130 名
第 3 回	平成 22 年 12 月 20 日	東アジアの食料と環境に関する 現況分析と将来展望	生物生産学部	70 名
第 4 回	平成 23 年 11 月 5 日	農業・水産現場の自然災害からの復興	生物生産学部	120 名
第 5 回	平成 24 年 11 月 3 日	東アジアの持続可能な農業を目指した 研究の進歩	生物生産学部	80 名
第 6 回	平成 25 年 11 月 2 日	東南アジアと日本における水産資源の 持続的利用と保全	生物生産学部	80 名
第 7 回	平成 26 年 11 月 1 日	アジア諸国における安全な食料生産環境の実現	生物生産学部	80 名

別添資料 10 研究科共通機器

共通機器室 (A 棟 601)

(平成 25 年 4 月現在)

番号	機 器 名	規 格	取得日付
1	DNA 自動分離装置	クラブ PI-50	
2	分光光度計	日立製作所	1999.10.25
4	DNA シーケンサー	アフライト [®] ハ [®] イシステムズ [®] 社 310-10N	2004.10.28
5	GAS 法遺伝子導入装置	GIE-III イデラ	1994.12.26
6	アミンプレス細胞破碎機	SLM-AMINCO 型	1995.01.31
7	フルオロ・イメージアナライザー	F L A - 7 0 0 0	2008. .04.23
8	プロテインシーケンサシステム	アフライト [®] ハ [®] イシステムズ [®] 社 492-02A	2008.05.14
9	ペプチド合成機	島津製 P S S M - 8	1997.03.21
10	全自動アミノ酸分析機	日本電子(株) JLC-500/V2	2007.08.06
11	低温反応槽	ケルサーモユニット CTU-2515	1994.12.28
12	アルミブロック恒温槽	タイテック(株)DTU-1B 型	1994.12.28
13	アルミブロック恒温槽	タイテック(株)DTU-1B 型	1994.12.28
14	アルミブロック恒温槽	タイテック(株)DTU-2B 型	1994.12.28
15	蛍光顕微鏡	ニコン E6F-21-1	1999.03.12
	(CCD カメラコントローラー付)	浜松ホトクス製 C4745-CCU	2003.01.22
16	紫外可視分光光度計	日本分光(株)製 V-520	1994.12.28
17	紫外可視分光光度計	日本分光(株)製 V-520	1994.12.28
18	紫外可視分光光度計	日本分光(株)製 V-530	1997.11.27
19	紫外可視分光光度計	日本分光(株)製 V-530	1997.11.27
20	高速冷却遠心機	マルチ [®] ーハ [®] ス Model 6800	1994.12.26
21	高速大容量冷却遠心機 7780		2005.06.01
22	分離用超遠心機	卓上型 Optime TL	1994.12.27
23	超遠心機	日立後記(株)製 HIMAC CP80WX	2013.01.24
24	分散系特定解析装置	島津製	1997.11.27
25	分光光度計	島津製 UV ミニ 1240	2000.03.31
26	自記分光光度計	島津 二波長 W ビーム	1983.03.30
27	薬用冷蔵ショーケース	三洋電機 MPR-110(G0)	1989.03.16
28	薬用保冷庫	フリーザー付 サンヨー MPR-211F	1994.12.06
29	ドラフト	ダルトン 1500×750×2300	1988.02.20
30	ドラフト	ダルトン 1500×750×2300	1988.02.20
31	ハイブリオープン	タイテック HB-S	
32	マイクロ冷却遠心機	久保田 3700 マイクロタータ F -2724A	2008.12.02
33	高速液体クロマトグラフ LC/MS/MS	日本ウォータース [®] (株)	2010.02.18
34	リアルタイム PCR システム	米国ライフテクノロジ [®] ズ [®] ジャパン(株)	2011.02.18
35	極微量分光光度計 NanoDrop	Thermo Fisher Scientific 社	2011.02.24
36	イメージングクロフィル蛍光測定システム	HEINZ WALZ 社	2011.03.30
37	紫外可視分光光度計	Amersham Bioscience(株)	2005.05.01
38	PCR 装置 サーマルサイクラー		2005.05.01
39	クリオスタット		

共通機器室 (B棟 401)

番号	機 器 名	規 格	取得日付
1	細胞操作システム		1993.03.26
	(マイクロピペット製作器付)	ナリシゲ PB-7	1990.03.20
2	嫌気グローブボックス	ガス置換型 GB800SG	1999.06.01
	(ダイアフラム型真空付)	ポンプ東京理化 DIVAC 0.6L	1999.07.12
	ダイアフラムポンプ	排気ユニット 井内 VU-1000	1999.06.01
3-①	ガスクロマトグラフ	島津製作所 GC-1700	2001.06.15
3-②	ガスクロマトグラフ	島津製作所 GC-8A I T	2003.03.18
4	オートアナライザー	BELTEC SWAAT	
5	C H N コーダー(分析部)	ヤナコ社 MT-5	1997.12.25
	C H N コーダー (装置制御部)		1997.12.25
	CHN コーダーオートサンプラー	M T -5 用	2002.03.29
6	全有機体炭素計	全自動測定システム	1999.03.18
7	プログラム恒温培養器	ヤマト科学 IN600	1996.07.26
8	恒温培養器	照明付 東京理化 FLI-160	1996.03.21
9	マイクロ天秤	サ ^レ ルトリウス MC5	1998.03.27
10	低温恒温恒湿室	1800×1800×2200	2007.12.10
11	全有機体炭素計	TOC-VCSH	2008.04.14
	オートサンプラー	島津製作所 ASI-V	2011.02.24
12	NK 式クリーンベンチ	VH-1300S	1990.03.30
13	製氷機		
14	ドラフト	ダルトン 1800×750×2300	1988.02.20
15	マイクロ冷却遠心機	久保田 3700 マイクロタ A F -2724 A	2008.12.02
16	ガスクロマトグラフ質量分析計	イオントラップ GC/MS システム GCQ	1998.03.25
17	リアルタイム PCR システム	米国ライフテクノロジ ^ス ・ス ^テ ジ ^ヤ ・ハ ^ン (株)	2014.02.13
18	マルチラベルカウンター	ARVO X4	
19	化学発光検出器	L A S -3000	2002.12.16
20	生化学自動分析装置一式	ベ ^ク マン・コ ^ル ター・ハ ^イ オメ ^テ ィカ ^ル	2009.12.24
21	レーザーマイクロディセクション	ビーエム機器	2011.02.08
22	安全キャビネット	米国 NuAire 社製	2012.03
23	凍結乾燥機		

サテライト

番号	機 器 名	規 格	取得日付
1	自動 X 線回折装置	RINT-TTR/PH	1998.03.25
2	走査型組成分析装置		1998.03.25
3	走査型電子顕微鏡	日本電子(株)JSM-6390LV	2008.06.13
4	生物学用電子顕微鏡装置	日立 H-600A	1992.02.26
5	ウルトラマイクロトーム	Ultracut N	
6	ICP 発光分光分析装置	iCAP 6300	2007.08.30
7	低温室(三菱冷却システム)		2005.01.05
	製氷機(フレクアイスメーカー)	FM-120F ホン ^サ キ中国(株)製	

広島大学生物生産学部・生物圏科学研究科

8	タンパク質精製システム	ファルマシア社 P. S. L. C.	1997. 12. 25
9	高速冷却遠心機	日立工機 CR21E	1997. 09. 30
11	土壌呼吸測定装置	LI-800S	2002. 08. 19
12	原子吸光炎分光光度計	日立製作所 170-30 型	1991. 01. 10
16	安定同位体比質量分析計	Delta Plus	1998. 03. 25
18	元素分析計 (本体に付属)	Delta Plus	1998. 03. 25
19	光合成蒸散速度測定装置	携帯用 LI-6400	1998. 08. 25
20	光合成能測定装置	チェンバー 広島設備	2002. 08. 19
21	温暖化ガス制御オープントップチェンバー	4 角柱型	2002. 08. 20
22	超遠心機	米国ベックマン社 OptimaXL-90	1994. 03. 25
23	レーザースキャン顕微鏡	米国ハイオットラボラトリーズ社 MRC-600UV	1994. 03. 25
24	多核種磁気分光構造解析装置	JNM-A400	1994. 03. 25
25	自動ケルダール分析装置 (1/5~5/5)	K-360 B-414	2010. 03. 04
26	自動ケルダール分析装置 (1/5~5/5)	K-360 B-414	2010. 03. 04
27	乳成分分析装置ミルコスキャン (1/4~4/4)	LACTOSCOPE FILTER BODEL C4+	2010. 03. 26
28	自動粗繊維分析装置ファイバーサーム	FT12-S	2010. 03. 29
29	自動粗繊維分析装置ファイバーサーム	FT12-S	2010. 03. 29
30	細胞アナライザーAttune	米国ライフテクノロジーズ社製	2011. 04. 20
31	フーリエ変換赤外線分光光度計	(株)島津製作所	2011. 06. 13
32	ガスクロマトグラフ質量分析計	(株)島津製作所	2011. 06. 13
33	高速液体クロマトグラフ質量分析計	(株)島津製作所	2011. 06. 13
34	コロニーピッカー	Molecular Devices	2011. 09. 09
35	レオロジー機能測定装置	米国サーモフィッシャーサイエンティフィック社製	2011. 07. 08
36	ナノサイズ粒子測定装置	(株)島津製作所	2011. 06. 13

別添資料 11 広島大学地域貢献研究プロジェクト採択リスト(平成 22 年度～)

(出典：研究科作成)

(単位：千円)

研究代表者名	研究プロジェクト名	年度	金額
西堀 正英	希少鳥類の繁殖効率向上のための非侵襲性手法による性(雌雄)判別法の開発と実用化およびその手法の教育・普及活動の実現に向けた動物園・地域一体型の取り組みの実現	平成 22 年度	2,760
加藤 範久	食品素材としてのタコの機能性の解明とその食品開発への応用	平成 22 年度	2640
井関 和夫	周防灘中津干潟におけるアサリ漁場の復活に向けた干潟・海洋調査	平成 22 年度	2,290
谷田 創	野生生物による農業被害軽減という集落共通課題を通じた地域力の向上に関する研究	平成 22 年度	2,330
海野 徹也	魚類によるカキならびにアサリの食害防除に関する生物学的研究	平成 23 年度	1,676
高梨子 文恵	瀬戸内海島嶼部における女性を核とした広域連携による地域活性化の可能性	平成 24 年度	721
山本 民次	帝釈峡神龍湖の水質悪化原因の究明と改善材適用による改善	平成 25 年度	1,932

別添資料12 生物生産学部・生物圏科学研究科ミッションの再定義「研究推進の方向性」資料
(出典：研究科作成(文部科学省提出資料から一部抜粋・改編))

4-1 研究科の特色ある研究

4-1-1 大型クラゲの海洋調査

日本国内の漁業などに大きな被害をもたらしているクラゲ類の大発生についての研究を行い、従来謎に包まれていたエチゼンクラゲの生態を明らかにして大発生への対策に貢献した。農林水産技術会議受託研究等。第5回海洋立国推進功労賞(内閣総理大臣賞)【H24年度】、日本海洋学会賞【H22年度】等。

4-1-2 ニワトリ免疫機能の応用と感染防御機能の強化

「日本鶏プロジェクト研究センター」を設立するなどにより、研究用ニワトリ資源を豊富に保有しており、これを活用して健康で安全なニワトリを生産するために必要な生殖器の感染防御機能(日本畜産学会賞, H15年度)や、日本鶏の遺伝形質の特性(日本家禽学会賞, H18年度)等について、特色がある研究成果を上げている。

また、ニワトリを用いたモノクローナル抗体の作製法を開発して、哺乳類を免疫動物にすると作製が難しい種類の抗体の作製を可能とした。ひろしま産業振興機構受託研究、(財)バイオインダストリー協会共同研究【H22年度】。特許取得【ニワトリの白血病阻止因子(LIF)、及びそれをコードする遺伝子(H12年度等)】。ベンチャー企業設立【H19年度】。中国文化賞【H23年度】。

4-1-3 家畜繁殖技術の革新的改良

排卵メカニズムの解析、着床の仕組みの解明という基礎研究と、凍結精液作製、融解法の開発という応用研究を組合せ、ブタ凍結精液を用いた人工授精法を確立してブタの繁殖効率を格段に向上させた。科研費若手研究A【H23-26年度】・(独)農業・生物系特定産業技術研究機構受託研究等【H23-24年度】。特許【受胎率および産子数向上凍結精子およびその製法(H23年取得)】。ベンチャー企業設立【H23年度】。第9回日本農学進歩賞【H22年度】。

4-1-4 食品の安全性と機能性の強化

消化管の上皮細胞間経路を調節する食品成分とその作用機構を解明し、また乳酸菌が粘膜免疫機能に及ぼす影響を明らかにして、今後の食品機能性向上を目指した革新的研究の基盤を築いた。第12回日本農学進歩賞【H24年度】。

また、柿渋がノロウイルスを失活させる効果があることを発見し、その知見に基づいて抗ノロウイルス剤を企業と共同開発した。特許2か国取得【抗ノロウイルス剤およびこれを含有する組成物(H24年取得, 日本および中国)】。共同研究・技術移転功労賞【H20年度】、第25回「中小企業優秀新技術・新製品賞」産学官連携特別賞【H25年度】。